

「令和6年度課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」 成果報告書(概要)

プロジェクト名	農地マッチングサービス「ニナタバ」の実証
サービス利用者名	(株)アグリメディア
サービス提供者名	サグリ(株)

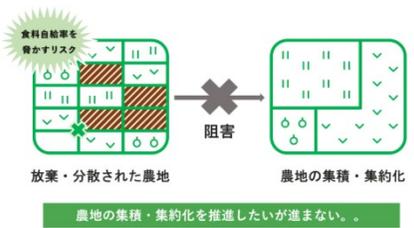
プロジェクト概要

農地集約を促進するため、農地マッチングの観点から、農地所有者の意向を反映することができるアプリの展開を開始した。本プロジェクトにおいては、衛星データ解析やGISデータを活用し、耕作放棄地等の可視化を進め、新規農業者による農地取得や自治体の基盤整備事業に役立つサービスの開発を行う。

導入前

イメージ

耕作放棄地が年々増加している中で、農業委員会が農地所有者の意向や農地の現状を正確に把握できず、新規就農者や農業法人等を誘致するにしても、農地を整備するための基盤整備事業を行う必要がある。



農地の集積・集約化を推進したいが進まない。

導入後

イメージ



農地の情報を可視化することで、借りたい農地の選定や、基盤整備事業の重点地区の候補地選定などの意思決定に活用

活用したデータの種類

<衛星名およびセンサ>
Pleiades(解像度0.5m、1時期)
Sentinel-2(空間分解能 10m、5日周期観測)

<地上データ>
区画情報(ポリゴンデータ)、農地位置情報(農地ピン等)
基盤地図情報数値標高モデル

データからアウトプットへの変換イメージ

- ・区画情報・農地位置情報、基盤地図情報数値標高モデルのデータや、解析によって得られた耕作放棄地の分布状況を可視化し、重点地区の候補地選定に資する地図を作成

⇒利用者が「余っている農地」と「新たな担い手」のマッチングや、基盤整備事業を促進していく材料として活用していただくことを期待

衛星データに関する要望

耕作放棄地を衛星データで解析していくうえで、植生を捉えていく必要があることから、より高頻度で低価格な衛星データを活用できることが望まれる。

サービス導入による効果(定量的に)

当サービスを活用することで、農地集約や農地マッチングが進むことにより、耕作放棄地・荒廃農地の減少が期待できる。(公共の利益確保)

※1 フォントサイズは10pt以上とすること。 ※2 A4サイズ横1枚以内に収めること。 ※3 申請代表者を下線で示すこと。